Journal of Kansai University
of Social Welfare No.10, 2007.3
pp.1－9

原　著

《J. S. Bach の病めるものへのまなざし》

A musical blessing to clients in works of J.S.Bach

古瀬　徳雄

要約：教会音楽の制作に携わる作曲家にとって，教会暦に従った典礼の機会に応じて作品を創り上げることは使命であった。そこには，聖書にあるイエスの心身の治療，信仰による奇蹟の救済の幾多の事例が取り上げられ，これらの福音書を創造の泉とし，宗教音楽の幾多の名作を生みだした作曲家は多い。J. S. バッハ（1685～1750）もその一人である。彼が所属するルター派教会において，その日の礼拝で朗読する福音書の章句に基づいて牧師の説教を行った後，関連する歌詞に作曲し演奏していったのが「カンタータ」である。

バッハは聖書にある，さまざまな病を持つ患者をどのように捉えていたのか，彼の巨大な作品群から，「ハンセン病」の患者に対する癒しに絞り，現存する約200曲以上の「カンタータ」を調べたところ，「Aussatz」の語句そのものが登場している曲が２曲あり，また福音書聖句との関連する曲は５曲見つかった。そこには歌詞の語りかける深い表現，作品の構造の分析を通して，独立声部と通奏低音の織り成す周到な生地に，「ハンセン病」への思いが「苦難の解放」として，人知れず縫い込まれていることが浮かび上がってきた。それは，手本なしに生み出された独自の創造物であり，バッハのまなざしは，すでにこの時から，遥か先の現代を見通していたのではないだろうか.

Key Words：ハンセン病，福音書，カンタータ，アリオーソ，苦難の解放

Ⅰ．ハンセン病に関わる福音書

（１）マタイ伝第８章「らい病人をきよめる」1-3[1)]

『イエスが山から降りて来られると，多くの群衆がイエスに従った．すると，ひとりのらい病人がみもとに来て，ひれ伏して言った．「主よ．お心一つで，私をきよめることがおできになります.」イエスは手を伸ばして，彼にさわり，「わたしの心だ．きよくなれ.」と言われた．すると，すぐに彼のらい病はきよめられた.』(1989-1)

（２）ルカ伝第７章「百人隊長のしもべをいやす」21-22

『イエスは多くの人々を病気と苦しみと悪霊からいやし，また多くの盲人を見えるようにされた．そして答えてこう言われた．「あなたがたは行って，自分たちの見たり聞いたりしたことをヨハネに報告しなさい．盲人が見えるようになり，足なえが歩き，ライ病人がきよめられ，つんぼの人が聞こえ，死人が生き返り，貧しい者に福音が宣べ伝えられています」』(1989-2)

（３）ルカ伝第17章「きよめられた十人のうち，ひとりだけが感謝をする」11-19

『イエスはエルサレムに上られる途中，サマリヤとガラリヤの境を通られた．ある村にはいると，十人のらい病人がイエスに出会った．彼らは遠く離れたところに立って，声を張り上げて，「イエスさま，先生．どうぞあわれんでください.」と言った．…自分のいやされたことがわかると，大声で神をほめたたえながら引き返して来て，イエスの足もとにひれ伏して感謝した．彼はサマリヤ人であった．そこでイエスは言われた．「十人いやされたのではないか．九人はどこにいるのか．神をあがめるために戻って来た者は，この外国人のほかには，だれもいないのか.」それからその人に言われた．「立ち上がって，行きなさい．あなたの信仰が，あなたを直したのです.』(1989-3)

バッハの「ハンセン病」に基づく「カンタータ」を３種に分類する.（１）「Aussatz ハンセン病」の語句をそのまま歌詞として使っているカンタータ（２）福音書から上述のルカ，マタイ伝の箇所を受けて，歌詞台本が作られ，「Aussatz」との関連が明らかなカンタータ（３）福音書の同じ箇所から「Aussatz」の言葉はないが，詩人が何らかの象徴的な語句に結びつけ，自由詩として作成し，影響

2006年12月６日受付／2007年１月31日受理
Tokuo　FURUSE
関西福祉大学　社会福祉学部

が考えられるものに分けた.

II　ハンセン病に関わるカンタータ

表Ⅰに「カンタータ」のタイトル，作曲年，機会，楽曲構成を掲げる.

R：Rezitativ　Sin：Sinfonia　A：Aria

Aso：Arioso　Ch:Choral　C：Chorus

表Ⅰ

(1)「Aussatz」の語句があるもの ルカ伝17, 11-19
(1) BWV25《Es ist nichts Gesundes an meinem Leibe》 1723年8月29日　三位一体後第14主日　C-R-A-R-A-Ch (2) BWV78《Jesu,der du meine Seele》 1724年9月10日　三位一体後第14主日　C-A-R-A-R-A-Ch
(2)福音書から「Aussatz」との関連が明らかなもの ルカ伝 17,11-19
(3) BWV17《Wer Dank opfert,der preistet mich》 1726年9月22日　三位一体後第14主日　C-R-A-R-A-R-Ch
(3)「Aussatz」の歌詞はないが福音書との関連がみられるもの マタイ伝8，1-13
(4) BWV72《Alles nur nach Gottes Willen》 1726年1月27日　顕現節後第3主日　C-R/Aso-A-R-A-Ch (5) BWV73　《Herr,wie du willt,so schick's mit mir》 1724年1月23日　顕現節後第3主日　C/R-A-R-A-Ch (6) BWV111《Was mein Gott will,das g'scheh allzeit》 1725年1月21日　顕現節後第3主日　C-A-R-A-R-Ch (7) BWV156《Ich steh mit einem Fuß im Grabe》 1729年1月23日　顕現節後第3主日　Sin-A(C)-R-A-R-Ch

III　作品分析

(1)「Aussatz」の語句をもつカンタータ

(1) カンタータ第25番《Es ist nichts Gesundes an meinem Leibe》

「Aussatz」が歌詞に登場する曲の関連部のみ記す.

(1996-1-1和訳　松浦)

2. Rezitativ (Tenor)

Die ganze Welt ist nur ein Hospital,
全世界は病院にすぎない,
Wo Menschen von unzälbar gröser Zahl
人々が数えきれぬほど大勢,
Und auch die Kinder in der Wiegen
そしてまたゆりかごの子供らが,
An Krankheit hart darniederliegen…
病に悩み臥せっているところ.
Der erste Fall hat jedermann beflecket
太初の堕落がすべての者を穢し,
Und mit dem Sündenaussatz angestecket.
罪の癩を伝染したのだ.[2)]
Ach! dieses Gift durchwühlt auch meine Glieder;
ああ！この毒が穿って回る，わが四肢をも.
Wo find ich Armer Arzenei?
いずこにこの哀れな身は薬を得られよう？
Wer stehet mir in meinem Elend bei?
誰がこの惨めな身に寄り添い助けてくれようか？
Wer ist mein Arzt, wer hilft mir wieder?
誰がわが医師なのか，誰がこの身をもとへ戻してくれようか?

3. Arie (Bass)

Ach, wo hol ich Armer Rat ?
ああ，いずこにこの哀れな身は助けを得よう？
Meinen Aussatz, meine Beulen
わが癩，わが腫れ物は
Kann kein Kraut noch Pflaster heilen…
どんなクサどんな膏薬も直すことができぬ,

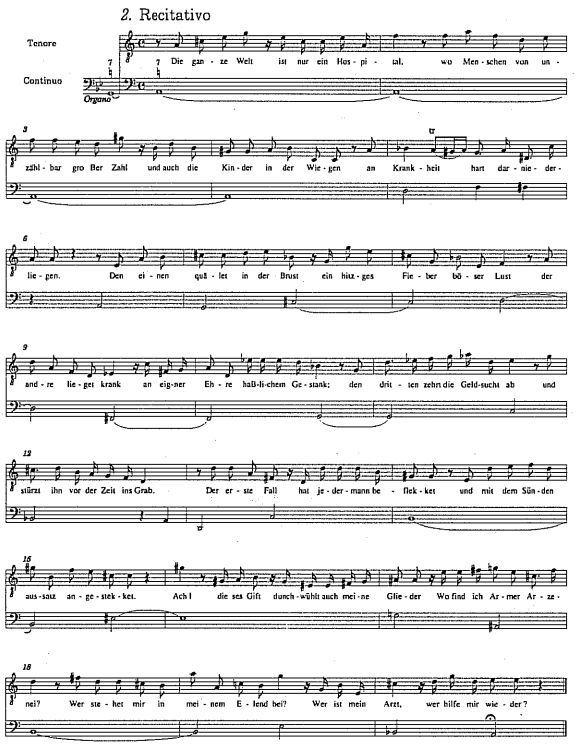
4. Rezitativ (Soprano)

Du Arzt und Helfer aller Kranken,
御身あらゆる病める者の医師，助け手,
Verstoß mich nicht
突き放し給いませぬように，この身を
Von deinem Angesicht!
御顔の御前から.
Mein Heiland, mache mich
わが救い主，この身を,
vom Sündenaussatz rein,
罪の癩から清めませ
So will ich dir
さらば御身に
Mein ganzes Herz dafür
わが心のすべてを
Zum steten Opfer weih'n
絶ゆることのない供物に献げましょう,
Und lebenslang vor deine Hilfe danken.
そして命の限り御身の助けに感謝しましょう.

第2曲のテノールのレチタティーヴォが世界中は患者に満たされた病院であるとし，こども，心の悩み，欲望，名誉欲，物欲により身を破綻しているものがたくさん臥せっており，こうした病を蔓延させたのが「Aussatz」で

あるとしている．ここでは罪に汚れた世のさまを表す言葉に，鋭い形象表現を与え，克明な描写に組み替えていくバッハの手法が存分に駆使されている．「krankheit 病気」[3] b-a-gis の半音下降にトリラーを加え，H-C-A-B も名前を逆転して音名を刻んでいることに止まらない．［譜例１］

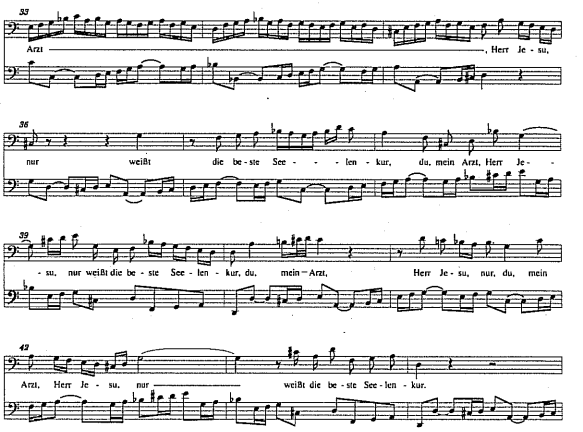
［譜例１］



さらに5（□小節番号以下）の減５度，7,8の減７度による減音程多用，10の1oct．短２度の異常な跳躍が憤りを示す．また1,2ではd:の様相を見せ，6,12にバスの５度の下降でd:の終止の折り目をつけるが，するりとかわして大抵抗する．g：のb系短調から fis：，h：の♯系に転じるが，それはまさしく「Sündenaussatz 罪の癩」の表現にほかならない．「und mit dem Sündenaussatz angestecket 罪のライをうつしたのだ」では，減７の和声音で上昇し，「aus」の♯へ増４度で頂上に上がり，急転降下し，今度は減５度でかけ上る．16行でできている歌詞は２行ごと定位に韻を変えるが，異例になるのは，「Ach! dieses Gift durchwühlt auch meine Glieder この毒が四肢を巡る」のところに韻のシンコペーションを毒の循環に使っている．♭の音名，es，bに「krank 病める」「böser 粗悪」「häßlichem 醜い」をあて，「flekket 穢す」「stekket うつす」「Ach ああ」には，「Aussatz」の♯の音名 cis, gis をすべて当てている．こうした世の中で「哀れなこの身はどこに助けを求めたらよいのか」と，悲痛極まりない心情は性格的なオスティナート低音を伴うバスの次のアリアに持ち越されて歌われる．

第３曲は，２部構成で，前奏，間奏，後奏の長さ，音型は同じで，休符はなく，それは間断なく歩み行く様を描く．d：, a：, d：の基本的調性である．１部は各節の句を歌い切ってから，今度は短く区切って４回反復する．「Wo hol ich Armer Rat 誰がこの哀れな身を助けよう」6音節を八分音符７拍あてるが，３回目は長く，また「wo 誰が」の位置は，そのたびに変わり，あちこちから聞こえてくる人々の叫び声になる．「Aussatz」の属７から，「Beulen 腫れもの」へと主音に進み明瞭な折り目が感じられる．33の「Arzt 医師」の２小節半の16分音符は治療の施しを表し，さらには，バスコンティヌオがＨのない C-B-A で不完全であるがバッハ本人も支えてはいるが，「Herr Jesu nur イエスだけが」の最長音による呼びかけによって，真の癒しの主体者はイエスであることを，イエスのみが魂の最良の医師であることを圧倒的な表現力で際立たせている．［譜例２］

［譜例２］



第４曲レチタティーヴォはソプラノによる．es はここでは「geschwäten 弱った」「aller すべて」「kranken 患者」にあてられ，9から「Mein Heiland,mache mich vom Sündenaussatz わが救い主，この身を罪のらいから清めませ」と歌い切った直後に，すべての♯は取り除かれ，「lebenslang 命の限り」御身の助けに感謝すると叙情溢れた絶唱となり，イ短調に始まった音楽は転調を経るうち，♯も♭も付かないハ長調へと明るんでゆく．

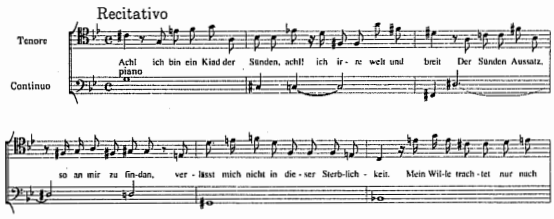
(2) カンタータ第78番《Jesu,der du meine Seele》

「Aussatz」の歌詞がある曲のみ記す．（1996-2和訳　松浦）

3．Rezitativ（Tenor）
Ach! ich bin ein Kind der Sünden,
ああ，わたしは罪の子，
Ach! ich irre weit und breit.
ああ，わたしは遥か遠く迷っている，
Der Sünden Aussatz,so an mir zu finden,
罪の癩病がわたしの体に現われ，
Veläßt mich nicht in dieser Sterblichkeit.
死ぬべきこの身から去ることはない．
Mein Wille trachtet nur nach Bösen.
わたしの心はただ悪を追い求める．

「Aussatz」の歌詞をもつ第３曲はテノールのレチタティーヴォである．バスコンティヌオは，８分音符まで33回の和音の交替がある．そのうち半数の15回が減７の和音である．バッハは予備なしに不安な表情に，最も厳しいこの和音を使う．さらにこの曲を劇的にしているのが，7度の下行が２回，10度の上行が２回と，この跳躍の激しさは，ほとんど旋律とは言えないほど屈折しており，罪の険しい表情をみせる．「ich bin ein Kind der Sünden ああ，わたしは罪の子」と「Sünden 罪」に３回コンチャート（同音連打）で厳しくあたり，「seufzend ため息」では，ポルタメントの指示を付け，このように言葉の表情を逐一，音に写していく．最後に「Rechne nicht 数えないで」では，逆に通奏低音が４連打の倍に分割になり，旋律は「erzürnet hat 怒りを起こさせた行い」と罪にまみれた私を歌う．「Aussatz」の語句には，増４度と長６度があるが，「Sünden」が同音で歌われることと，「weit はるか」が１オクターブと短３度の跳躍があるため，目立たない程に押さえられ，そのことは，直後の「so an mir zu finden(罪の癩病が）わたしの体にあらわれ」の巾の狭いおだやかな処理に，深い配慮が見られる．［譜例３］

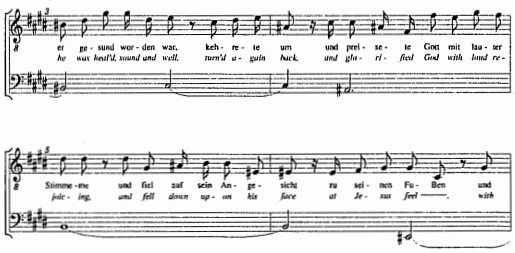
［譜例３］



（２）福音書から「Aussatz」との関連が明らかなもの
(1) カンタータ第17番《Wer Dank opfert,der preist mich》
福音書聖句「Aussatz」に関係する第２曲のアルトのアリアは，「stummer 無言」は，導音 eis で同じ音を繰り返し，釘付けにして静寂を守り，「Luft 空気」「Wasser 水」「Erden 大地」と高，中，低の位置を，それぞれの音域で当て，「大地」ではマーラーも使うことになるｄ音の源がある．「Preist die Natur 神を自然が称える」は，自然を表す完全協和音程で配置している．

第４曲では，「10人のらい病人を治癒したが，ひとりだけが戻って感謝した．その人は，世間から罪の意識をかぶせられているサマリア人であった」の節である．「Gesund 元気」ここでは上行４度を採り，治癒，快癒の意味である．「Preisete Gott mit lauter Stimme 大声で神に伝え」では，10音使っているが，一人の男が10人分の感謝の声を張り上げている様子を，福音書のまま音楽化している．さらに10音のうち９音がまだ♯の付いた音で，1音は♯がついていない．この人こそ感謝を捧げた，サマリア人その人を描写している．「Angesicht 直面する」ここではイエスの足元にひれ伏すのであり，eis-fis-gis-cis と♯の十字架を幾重にもつけ，fis:できっちり固定する．［譜例４］
第５曲では，サマリア人は，他の人々とも打ち解けて神に感謝する様を，明るい D:の音色，２度の反復，スラー音，填音の多用で，喜びに満ちて描いていくのは見事である．

［譜例４］



（３）「Aussatz」の歌詞はないが福音書との関連がみられるもの
(1) カンタータ第72番《Alles nur nach Gottes Willen》
「らい病人の癒し」と「中風に苦しむ僕（しもべ）が癒される」の箇所で，第４曲のバスがレチタティーヴォで「So glaube nun! だから，信じなさい」の gis-e は，後の「ich will's thun! 私もそうしたい」の ich も e-gis を採ることで一致する．「noch willigst auszustrecken 常に進んで差し出される」は，福音書マタイ伝の「イエスがらい病人をきよめる」の「イエスは手を伸ばして，彼にさわり，わたしの心だ，清くなれと言われた」の朗読箇所に d-a-fis-d の長三和音で対応し，バッハがイエスに近接していることを的確に表現している．さらに「Er kennet deine Noth 主は苦境を知り」「und löst dein Kreuzesband　あな

たの十字架の縄を解かれる」の「Noth 苦境」と「löst 解く」も同じ cis を使いながら，それは１オクターブ離れており，「解く」の次に「kreuz」も cis を使うのならあたりまえになるが，バッハはそうはしない．「kreuz」にまだ使ったことのない♭を当てて減７度を築くのである．さて，その cis はどこにいったのか，それはバスコンティヌオに逃げていき，縄は霧散消去している．

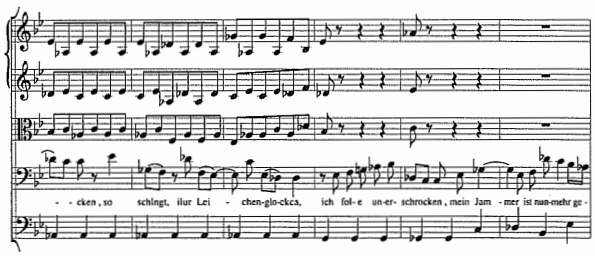
バッハのアリアの使い方は，弱いもの，迷えるものが，自ら弱いことを表し，罪にまみれてどうしようもないようなときに使われるが，第５曲のソプラノのアリアでは「mein Jesus」と個人的な信仰の喜びとして受け止められた表現に使用されている．Ob. と弦楽器と通奏低音の漸層法による生地に，イエスへの私の呼びかけがソプラノによって織り込まれ「Mein Jesus」と親しみを持つ長い呼びかけと「kreuz versüßen 十字架を甘美なものに」のシンコペーションの躍動感をもちながら，「sanft,still,ruhn 和らぐ，静かに，憩う」に導く長音をあて，最後に再び「mein Jesus」の秘蹟を賛え，キリストの c 音で終わる．

(2) カンタータ第73番《Herr,wie du willt,so schick's mit mir》

第２曲の「kranken 病んでおり」にテノールの独唱部とコンティヌオに２つのナチュラルが付記され回復の希望に繋がれて c：で収まる．「Wanken 揺らぎ」に対してもその音型が反映される．２度目の「kranken」は，２分音符で持続の後，半音で転がり苦しんだ後は，ナチュラルを境に，「Freudigkeit 喜び」と「Hoffnung 希望」に「Wanken 揺らぎ」はじめ，ダ・カーポで，また慄いて終わる．

第３曲の減７のいきなりの出現は「Verkehrt ねじまがった」の語句の吐露であろう．次の曲への橋渡しも，es-g-d の信仰告白に使われる音で跨り，attacca で第４曲に入る．３拍子，♭３個の c：，３回の同じ歌詞の「Her,so du willt」と，３とするキーワードが構成要素の一つになる．「Glider nieder 四肢を横たえる」に呼応して下降型を取り，バスコンティヌオがスラーの同音３連続で横たわる様を描く．マタイの福音書との関連では，「Sündenbildt 罪の型」の語に bass が des (death) を採り強調され，pizz の弔鐘効果は常套手段であるが，「gestillt 鎮められた」の後に，３小節間 pizz. が残っているが，それはそうでないことを表す，周到なバッハの手法がみられる．曲中の「Herr」の呼びかけは毎回形を変え，終わりの「Herr」の呼びかけは、裏拍への移動と休符によって，心からの呻きが絞り出されていることを物語っている．「ich folge nuerschrocken 驚かずに従う」のフレーズ途中の落差と，直後の「Jammer 嘆き」とは十字音型を形づくり，なみなみならぬバッハの創造に目を見張るところである．［譜例５］

［譜例５］



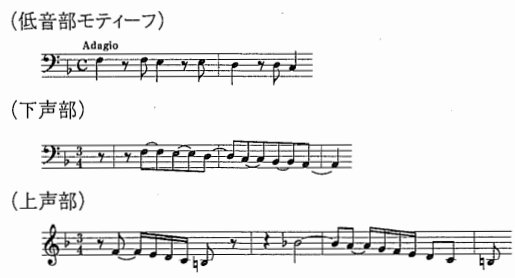
(3) カンタータ第111番《Was mein Gott will,das g'scheh allzeit》

マタイの福音書第８章の有名な「らい病人の癒し」の関連で成り立つ．第６曲のコラールと72番の第６曲のコラール「Was mein Gott will わが神のこころのままに」は共通であり，＜マタイ受難曲＞第25曲にも登場する．イエスが，十字架を前に神の御心から逃れようとしてもできない「御心のままに忍耐をお与え下さい，その御心が最善なのです」と受難を受け入れ，心を固める場面である．「So glaube nun! だから信じなさい」と，らい病の患者のたちにも「Den will er nicht verlassen こうした者を神がみすてることはありません」と呼びかけ，その答えは「Er pfelgt die Gna-denhand Noch willgst auszustrecken 主は恵みの手を常に進んで差し出される」と72番とも呼応している．

(4) カンタータ156番《Ich steh mit einem Fuß im Grabe》

第２曲では導入部のモティーフを受け，低声部はシンコペーションによって様々に変えられる．上声部は可能な限りのあらゆるリズムの変形を伴い陰影をつけ，間断なく繰り返す．これは，片足がすでに墓穴に入り，病める身体もやがて沈んでいく形象を，音楽によって明瞭に浮かび出させているのにほかならない．［譜例６］

［譜例６］



病みつかれたと死を願う独唱テノールとソプラノのコーラスが二分音符と四分音符が重なって，神へ慈悲を乞う．7に piano で e-d-c-h，が8では pianissimo で es-d-

c-hとなり，4音列が2音ずつの反行形でd-esとh-cの下行音形となってバスに多用され必死に神に祈る姿になって表されている．

第3曲は，バスのレチタティーヴォにより「Angst　不安」と「Noth 苦境」，「Leben 生」と「Tod 死」では跳躍した音程で歌い，バスコンティヌオとは短2度のぶつかりや増4度を採り，一方「Sünden 罪」は減7度，「Kranken 病むもの」では減5度を採る．「dein Wille soll an mir geschen　あなたの御心を私の上にならせてください」「Je länger hier こちらに留まり」「je später dort あちらにいく」では，言葉のままに音楽化され，アリオーソとなって苦しみから一刻も早い解放への表現をとっている．

第4曲はOb.先行，Vn.後追，またVn.先行，Ob.後追し，アルトが神への神託を心から誓っていく．「Freude 喜び」と「Leide 苦しみ」の対比語句は，そのままに楽想でその動きを明瞭に示し，「im Sterben　死にあって」も上行，下行の巾の広い音程をシンコペーションで動揺を表し，「Bitten 願う」は2回とも減7度の上行で，決意を固め，密度の高い独唱声部を加えた4重奏によって展開される．

第5曲の「die Seele sonder kranken sei　魂までが病むことなく」ではバスとコンティヌオの間に減7の和音が響き，「Herzens Teil 心のすべて」では増2度が採られ，バッハがレチタティーヴォにおいては，自分の内面にある魂との関わりに用いた表現形式として，その機能がここでも充分に生かされている．

結論

ハンセン病を「苦難」と捉え，持続，時間，強度から段階的にa「厳しい現実の認識」b「苦難の受容」c「苦難の解放」の類型に分ける．根拠は，我が国でハンセン病により，長い間，療養生活を続けてこられた話を土台にした．

a「厳しい現実の認識」

病名の不治の病の宣告や，他者からの忌避に，「なぜ」「私が，どうして」「どのように生きたらよいのか」「苦悩のどん底から，抵抗や努力しても無駄だ」と言った諦めや，やりきれなさに，どうしようもない状況に，心が動かなくさせられている．

b「苦難の受容」

ハンセン病救済は，同時に隔離を前提に行われたものである．療養所の中で患者の方は病ゆえの苦しみを黙って受け入れ耐え忍び，そうして苦難に打ち勝つことこそ真の信仰であると求めてこられた．療養所での隔離生活を生きぬくために，不満や怒りを鎮め，社会的な変革を求めることなく，どんな屈辱的な政策であれ受け入れ，世間の言われなき差別，偏見を信仰に耐える試練として受けきってこられた．「苦難の受容」は「隔離の受容」であり，ここに人間の尊厳が踏みにじられ，非人間的な生活に甘んじなければならなかった．

多摩全生園の山川重三は，『基督信徒之友』(1937) において「神より恵まれた病，これは決してたわごとではない．私が若しもこの病に恵まれなかったら，恐らくキリストの父なる神をしらず，罪に罪を重ねて，実に実に不幸な魂をかかえて哭いてゐたことであろう．私は重ねて云ふ．レプラとは天恵病であると」述べている．山川の信仰には矢内原忠雄の影響がある．矢内原は『聖書と癩病』[4] という一文を『通信』に載せている．それは「癩病を罪の報いだ，天刑病だと言ったのはイエスを知らなかった世界の事です．イエス様の居なさる世界では，癩病も天の刑罰ではありません．さうではなく，此の病人の上に神の御業の顕れん為であります．…癩病人も信仰によって此の天の恵を受けます．天刑ではなくて天恵であります」というものである．また，長島愛生園に精神科医として働いた神谷美恵子の『癩者に』では「何故私たちでなくあなたが？あなたは代って下さったのだ，代って人としてのあらゆるものを奪われ，地獄の責苦を悩みぬいてくださったのだ」と記している．療養所の看護師三上千代の「ライはキリストなり」も顕著である．(2006荒井) 超越した信仰に到ったものだけが得た「苦難の受容」である．

c「苦難からの解放」

何の罪もなく，自らに何の原因もなく，療養所で患者が死に絶えるのを待ち，断種され，地獄の責苦に追いやられてきた患者の人々が，21世紀になり，ついに沈黙を破り，苦渋の極限を，法廷の場で語り，自分史を語り始めた．沈黙し，ひたすら忍耐せよと，別な言い方をすれば「泣き寝入り」を強要する．こうした不当な扱いには，断固反撃して自分の信念を貫くという逆の方法だって悪いとは言えない．患者の人々，それこそ当事者の発信でなければ，他者への真実の共感を拡げていく，魂から魂へ伝わる意味のある発信にならないのである．こうした証言を通して「心の重荷がとれた」「辛い声をあげてき

いてもらって自由になった」「やっと解放された」という人がいる．これは「苦難からの解放」という方向というべきものではないだろうか．沈黙による閉鎖の強固な鍵を解き放つ方向である．究極の危機の中で，人間の失敗を繰り返すことに歯止めをかけ，自ら，主体として成長を遂げることを，最善の選択であると決断を下すに到った，苦悩の軽減どころではない，自由の獲得ともいえるものである．聖書にあるように，イエスは人間性を疎外する政治的権力や宗教的権威に対して，激しい現実批判の振る舞いにでていた．現在，人間の尊厳を奪いつくした長い苦難に対して，差別や偏見を甘受させる権力には真っ向から対立し，時代や社会に対する批判精神をもち，解放への主体になることは，すでに，イエス自らが「苦難の解放」を実現した精神に通じているのである．

この「認識」「受容」「解放」に基づいて，バッハの「Aussatz」に関わるカンタータを取り上げ，表Ⅱに楽章別に類型を示した．この楽章類型の「苦難の解放」に相当する声楽曲の様式は，セッコとアリオーソである．セッコとは，通奏低音のみの伴奏付レチタティーヴォであり，アリオーソとは，ドラマ性や運動の緊張度，個々の言葉のフィグーラ的装飾で書き記されるものである．この「解放」で取り上げられる独唱声部は，テノールか，バスが当てられ，楽章はどれも中間部分に位置している．このアリオーソは，患者自らの叫びの主体的な祈りとなり，バッハは，それを「小さな語り」と呼んだ．後にこのアリオーソは受難曲において，聖句及びキリストの言葉に限定して用いようと心に決めていた時期なのだ．バッハが暗喩でもって楽譜に刻み込んだそのときから，豊かで劇的でもないが，簡潔な独唱声部の筆致は強い表現力によって，「小さな語り」では抑えきれず，「偉大な語り」に方向付けられる．

ここでもう一度，カンタータ第111番を取り上げよう．第２曲のバスのレチタティーヴォの中間の部分の２行目，歌詞は「ja,was sein weiser Rat badacht そうだ，その高い知恵がとりはからったものだ」「dem kann die Welt und Menschenmacht 世と人の権力が」．それに対し「Unmögligh widerstreben 逆らうことはできない」と否定しているが，バッハの音楽はどうなっているのか．２回繰り返される「widerstereben 逆らう」の語には９拍と13拍半続き，２小節から３小節以上に亘って歌唱が引き延ばされるが，いかにこの語句を際立たせたいか，必死の抵抗を刻み付けようとしたいのか目を見張らせる．さらに伴奏のリズム型も逆転し抵抗している．調性は１回目がａ：ではじまりａ：で収まるが，中にｂ系のＦ：が入り込んで捻じ曲がっている．２回目は

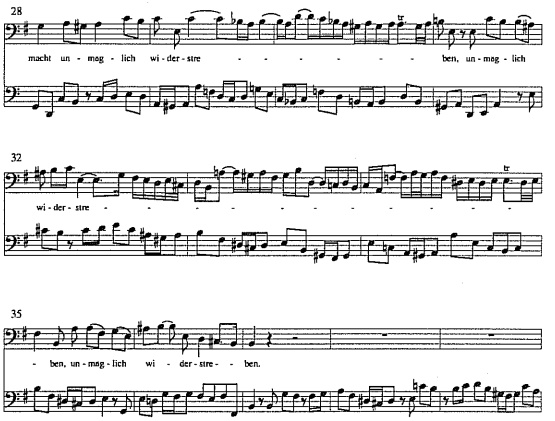
表Ⅱ

「Aussatz」を歌詞に持つ、あるいは福音書のハンセン病に関連するカンターター覧

BWV	カンタータの標題	初演	曲の位置	声楽形態	編成 (＋通奏低音)	楽章類型
25	《Es ist nichts Gesundes zu minem Leibe》 「汝の怒りによりて，わが肉体には全きところなく」	1723.8.29	第２曲 第３曲 第４曲	Rezitativo Arie Rezitativo	Ten. Baß（独立句） Sop.	ａ現実 ｃ解放 ｂ受容
78	《Jesu,der du meine Seele》 「イエスよ，汝は我が魂を」	1724.9.10	第３曲	Rezitativo	Ten.	ａ現実
17	《Wer dan opfert,der preist mich》 「感謝の供えものを献げる者は，われを讃う」	1726.9.22	第４曲	Rezitativo	Ten.	ａ現実
72	《Alles nur nach Gottes Willen》 「すべてはただ神の御心のままに」	1726.1.27	第１曲 第２曲 第４曲	Chor Rezitativo, Arioso,und Arie Rezitativo	Ob.1,2、弦 Alt. Baß	ｂ受容 ｂ受容 ｂ受容
73	《Herr.wie du willst,so schiks mit mir》 「主よ,御心のままに,わが身の上になし給え」	1724.1.13	第１曲	Chor +Rezitativo	Ob.1,2、弦 Sop.Ten.Bass.	ｂ受容
111	《Was mein Gott will,das g'scheh allzeit》 「わが父の御心のままに,常に成らせたまえ」	1725.1.21	第２曲 第３曲 第５曲	Arie Rezitativo Rezitativo	Baß Alt. Sop.	ｃ解放 ｃ解放 ｃ解放
156	《Ich steh mit einem Fuß im Grabe》 「わが片足すでに墓穴に入りぬ」	1729.1.23?	第３曲 第４曲 第５曲	Rezitativo, Arioso Arie Rezitativo	Baß Alt. Baß	ｃ解放 ｂ受容 ｃ解放

h:e:a:e:h:と調がシンメトリックに堂々巡りをしているのである．そのたびに，臨時記号の♯-ナチュラル-♯，ナチュラル-♭-ナチュラルが拮抗を繰り返す．［譜例７］

［譜例７］



こうしたバッハの音楽づくりから「逆らうこともできるのだ」と読み取れはしないだろうか．世と人の権力が誤ってつくったものは，間違っていると崩すことができるのだ．キリストの教えの是非についての判断は，まったくそのままに，信じることもあろうし，時には，自我をもって取り組み，付き従うことに意に反することもあり得るのではないか．このことをバッハは，自ら身をもって，作曲家の立場から，楽譜から，魂から，「苦難の解放」を指し示そうとしているのではないだろうか．しかも，大きな身振りでなく，「小さな声」だが，それは簡素から「深さ」「偉大さ」を伴う「真実の叫び」となって，暗喩で現われている．これこそバッハらしい「苦難の解放」と呼びたい．

シュバイツアーは，BWV25「Aussatz」の歌詞が登場する冒頭の「Die ganze Welt ist nur ein Hospital,Wo Menschen von unzählbar großer Zahl…全世界は病舎にすぎず，そこにて数えきれぬ多数の人々…世を病舎として描写しているレチタティーヴォを削除するがよい．これはあらゆる意味での無趣味さをなお超えたものである」としている．(1908 Schweitzer)(2000) ペンデレツキも＜“Passio et Mors Domini Jesu Christi Secundum Lucan”-ルカ伝による主イエス・キリストの受難と死-＞を1966年に初演しているが，ルカ伝のハンセン病に関する章は，外的要因か自己判断か，すでに計画から取り除かれている．

21世紀のグローバルな課題になったが，300年前から，人間の押しやられた遺産に，音楽による救済に真っ向から取り組み，病むものと同じ地平で，「いたわり」と「慈愛のまなざし」をもって「苦難の解放」まで，深めていたのは，バッハひとり，その人であろう．

［注］

1）聖書の引用は，バッハの時代の意にあわせるため，旧訳のものを使用し，すべて原文どおりとしたため，不適切な語句をそのまま使っている．従って聖書を基にした文書にも，「らい」を使い，バッハがカンタータに用いた歌詞「Aussatz」の訳は，「癩」「癩病」を用い，その他は「ハンセン病」を使用する．

2）訳者の補遺によれば，福音書のイエスは「癩病」を癒す際に，「癩病」を特に穢れたものとする差別と戦っている．その「癩」をこのように罪の比喩に使うことは，キリスト教史の中でも見られる偏見と誤解を示すものと言わざるをえないであろう．(1996-1-2)

3）文中のドイツ語の部分訳は筆者による．

4）原文のとおり．

［引用文献］

(1989-1) 新改訳『新約聖書』日本聖書刊行会1989　pp. 11
(1989-2) ibid. pp. 101
(1989-3) ibid. pp. 124
(1996-1-1) 松浦純訳バッハ全集第１巻教会カンタータ［1］小学館 pp. 195
(1996-1-2) ibid. pp. 176
(1996-2) 樋口隆一訳バッハ全集第２巻教会カンタータ［2］小学館 pp. 184
(2006) 荒井英子「ハンセン病とキリスト教」『礼拝と音楽』129号 pp. 36
(1908)(2000) Albert Schweitzer “Johann Sebastian Bach”，浅井真男・内垣啓一・杉山好訳「バッハ」下巻　白水社 pp. 83

［主要参考文献］

(2004) 鈴木雅明『わが魂の安息，おおバッハよ』音楽之友社
(2002) 鈴木雅明・加藤浩子『バッハからの贈り物』春秋社
(1996) 立川昭二『病気の社会史』日本放送出版協会
(2002) 小林義武『バッハとの対話』小学館
(1993) 樋口隆一『バッハ探求』春秋社
(2002) 樋口隆一『バッハ　カンタータ研究』音楽之友社
(1985) 礒山　雅『バッハ＝魂のエヴァンゲリスト』東京書籍
(1994) 犀川一夫『聖書のらい』新教出版社
(1981) 石館守三『聖書の中の「らい」』キリスト新聞社
(1991) Chafe，Eric Thomas “Tonal allegory in the vocal music of

J. S. Bach" University of California Press,

(2001) Christoph Wolff/Ton Koopman "Die Welt der BACH Kantaten-Johann Sebastian Bachs geistliche Kantaten von Arnstadt bis Köten" 磯山雅監訳『バッハ＝カンタータの世界Ⅰ 教会カンタータ　アルンシュタット～ケーテン時代』東京書籍

(2002) Christoph Wolff/Ton Koopman "Die Welt der BACH Kantaten-Johann Sebastian Bachs weltliche Kantaten "磯山雅監訳『バッハ＝カンタータの世界Ⅱ 世俗カンタータ』東京書籍

(2002) Christoph Wolff/Ton Koopman "Die Welt der BACH Kantaten-Johann Sebastian Bachs Leipziger Kirchenkantaten" 磯山雅監訳『バッハ＝カンタータの世界Ⅲ ライプツィヒ時代』東京書籍

[引用楽譜]

[譜例１][譜例２][譜例３][譜例４][譜例５]

Urtextausgabe nach J. S. Bach, Neue Ausgabe sämtlichter Werke, herausgegeben vom Johann-Sebastian-Bach-Institut Göttingen und vom Bach-Archiv Leipzig, Kantataten (25, 78, 17) zum 14. Sonntag nach Trinitatis,

[譜例６][譜例７]

Urtextausgabe nach J. S. Bach, Neue Ausgabe sämtlichter Werke, herausgegeben vom Johann-Sebastian-Bach-Institut Göttingen und vom Bach-Archiv Leipzig, Kantataten (73, 111, 156) zum 3. Sonntag nach Epiphania